

福祉生活病院常任委員会資料

(令和4年10月12日)

【 件 名 】

- 鳥取県障がい者、高齢者及び介護者等の孤独・孤立を防ぎ、誰一人取り残さない社会づくり条例（仮称）のパブリックコメントの実施 及び 第4回家庭支援研究会の開催結果について

(福祉保健課)・・・別冊

- 第9回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

(障がい福祉課)・・・2

- 令和4年度「あいサポート・アートとっとり祭（まつり）」の開催について

(障がい福祉課)・・・6

- 日吉津村における医療的ケア児等避難訓練の実施について

(危機管理政策課、障がい福祉課、子ども発達支援課)・・・7

- ハンセン病療養所入所者との県民交流事業の実施について

(健康政策課)・・・8

福祉保健部

第9回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

令和4年10月12日
障がい福祉課

1 大会の概要

- (1) 開催日時 令和4年9月25日(日) 午前9時30分から午後4時10分まで
 (2) 開催場所 倉吉未来中心 大ホール(倉吉市駄経寺町212-5)
 ※YouTube ライブ配信も実施
 (YouTube 動画をアイドラゴン4(リアルタイムで手話と字幕をつける装置)でも配信)
 (3) 演技内容 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コントなどのパフォーマンス
 (4) 出場チーム 12県から、全15チーム(16校)が出場
 ※本県からは、鳥取聾学校、鳥取城北高等学校、米子東高等学校の3チームが出場。
 (5) 来場者数 約300名(新型コロナウイルス感染症対策のため、会場での一般観覧はなし)
 (6) 大会結果

表彰内容	チーム名	演技区分	演技タイトル	得点
優勝	坂戸ろう学園・大宮ろう学園(埼玉県)	演劇・ポエム	夜明けのカラフル	289点
準優勝	奈良県立ろう学校(奈良県)	演劇	青い鳥	285点
第3位	松山聾学校(愛媛県)	演劇	私たちの“ことば”	268点
審査員特別賞	青森聾学校(青森県)	演劇・コント	世にもズレてる物語	—
全日本ろうあ連盟賞	横浜南陵高等学校(神奈川県)	演劇	じゅうにんという 十花十色 ～みんな違ってみんないい～	—
日本財団賞	熊本聾学校(熊本県)	演劇	その手が生み出すもの	—
鳥取県聴覚障害者協会賞	鳥取聾学校(鳥取県)	演劇	禍を転じて手話を聴く ～五感でつながる私たちの絆～	—

※上記以外の本大会出場8チームに、手話パフォーマンス奨励賞を授与

<優勝：坂戸ろう学園・大宮ろう学園>



<準優勝：奈良県立ろう学校>



《審査方法》 6名の審査員の審査得点を合計。(最大300点)

種別	人数	審査項目	配点
ろうの審査員	3名	手話の正確性・分かりやすさ 演出力・パフォーマンス度	30点 30点(合計60点)
聞こえる審査員	3名	演出力・パフォーマンス度	40点

(7) 出演者等

担当	氏名(敬称略)	よみ	所属等
総合司会	村上 真吾	むらかみ しんご	NHK とっとり放送局アナウンサー
演技司会	早瀬 憲太郎	はやせ けんたろう	学習塾「早瀬道場」塾長

	伊澤 心美	いざわ ここみ	米子高等学校2年生
	矢瀧 ゆら	やたき ゆら	米子高等学校2年生
審査員長	庄崎 隆志	しょうざき たかし	演出家・俳優
審査員	大竹 浩司	おおたけ こうじ	全日本ろうあ連盟副理事長
	河合 祐三子	かわい ゆみこ	俳優/手話・身体表現ワークショップ講師
	門 秀彦	かど ひでひこ	絵かき
	荒川 貴代	あらかわ たかよ	演出家
	田中 大介	たなか だいすけ	鳥取大学地域学部准教授
ゲストパフォーマー	手話エンターテイメント発信団 oioi	しゅわえんたーてい めんとはっしんだん おいおい	手話を通じて様々な事業をおこなう手話エンターテイメント集団

(8) 会場内の催し

- 0^{おる} lu 0^{おる}縁ま〜と。(あいサポートマルシェ:障害福祉サービス事業所による食べ物や雑貨の販売)
- 鳥取聾学校写真作品展 ○ 県内高校生による販売コーナー(倉吉農業高等学校)
- 県内高校生による郷土芸能ステージ (倉吉農業高等学校 ^{そうのう}倉農太鼓)
- 公式グッズの販売 ○ 最新機器の体験コーナー (レルクリア等)
- 手話チャレ映像及び手話パフォーマンス甲子園CM放映
- 協賛企業PR コーナー など

2 佳子内親王殿下のおことばについて

今大会は御臨席いただき、コロナ禍における高校生へのお気遣い、励まし、今大会への期待及び小学生が取り組む「手話チャレ」についてのおことばを賜った。

大会では、各チームのパフォーマンス及びゲストパフォーマンス(倉吉農業高等学校 ^{そうのう}倉農太鼓・手話エンターテイメント発信団^{おいおい}oioi)をご覧いただき、閉会後には入賞チーム代表者各2名及び手話チャレに取り組む倉吉市立西郷小学校の児童3名と引率教員1名と御歓談いただいた。

※手話チャレとは、県教育委員会が令和4年6月から運用を始めた、児童が動画で手話を学び、検定に挑戦する取組。

《開会式でのおことば》



《入賞校との御歓談の様子》



3 出場チーム及び関係者のコメント

- ・ 2つの学校が離れているので、いろんな人に連絡を取りながら練習しやっとなり勝ち取れた。優勝できてほっとしている。これまでに色々悔しい思いもしてきたが、最高のパフォーマンスが出来た。(坂戸ろう学園・大宮ろう学園)
- ・ 連続出場している部長は、優勝を目指していたので悔しい思いをしたが、顧問が替わり、部としても新体制になった厳しい状況の中で、部員が自主的に取り組むことが出来たことが成果。(奈良県立ろう学校)

- ・4回目の出場だったが、単独での出場が初めてだったため、皆やり切れるかどうかとても不安だった。3位になり、皆、言葉が出ないくらい感動していた。言葉なしで手話だけでコミュニケーションをとっていく内に、手話の方が思っていることが伝わりやすいということが分かり、手話での交流が深まった。練習を通じて、これまでに見たことのないくらい団結出来た。(松山聾学校)
- ・大会に参加して大変勉強になった。手話をもっと勉強したくなったので、手話が学べるスクールに通うことを検討している。他校の発表を生で見るととても刺激を受け、自身が変わるような経験となった。(静岡城北高等学校)
- ・優勝、準優勝の学校は、予選から高得点だったため、生徒も緊張していたが、大会スタッフに声掛け等してもらうことで緊張がほぐれ、安心してパフォーマンスに臨めた。毎年1年生が参加する大会としていたが、昨年出場した2年生も出たいとの強い希望があったため、校内ルールを撤廃し、1、2年生で参加した。(鳥取聾学校)

4 その他

- ・手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル (YouTube) にて配信を行い、18,000回を超える視聴があった。(昨年度は11,000回) ※大会前に、公式SNS、YouTube 広告等で周知。
- ・大会前日の交流会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としたが、代替措置として各出場校の代表者の抱負を前日に撮影し、当日、出場チーム及び関係者の受付にて放映した。
- ・今回の大会では、第3回大会で優勝経験のある熊本聾学校の生徒が引率教員として参加したり、あいサポートマルシェで鳥取聾学校の卒業生が販売員として参加したりするなど、長年の開催実績がある大会ならではのエピソードもあった。
- ・現地開催のため、県内の高校生約30名がボランティアスタッフとして参加し、演技司会、応援サポーター、ステージの進行補助、学校のアテンド等の業務を行った。

5 今後の取組

来年度は手話パフォーマンス甲子園の第10回大会及び手話言語条例制定10周年を迎える節目の年となることから、コロナ禍における現地大会開催の経験を踏まえ、出場校及び大会関係者からの御意見等を伺い、更に手話言語の理解・普及と共生社会の実現に向けた充実した魅力のある大会となるよう準備を進めていく。

■第9回全国高校生手話パフォーマンス甲子園出場チーム

発表順	都道府県	学校名	演技の分類	演技タイトル	本大会出場
1	群馬県	群馬県立聾学校Bチーム	演劇	笑顔	初出場
2	鳥取県	鳥取城北高等学校	絵本語り	『ひまわり』	7回目
3	鳥取県	米子東高等学校	ダンス・演劇	出会いと応援	4回目
4	石川県	田鶴浜高等学校	歌唱・演劇	「ここ」の魅力、みんなに届け。「そこ」の魅力、私に教えて。	9回目
5	石川県	金沢北陵高等学校	歌唱・ポエム	Thank you for meeting me.	2回目
6	兵庫県	鳴尾高等学校	歌唱・演劇	ともに ～きこえの違いを超えて～	2回目
7	青森県	青森聾学校	演劇・コント	世にもズレてる物語	2回目
8	静岡県	静岡城北高等学校	演劇	SDGs食品ロス削減のために私たちができること	初出場
9	愛媛県	松山聾学校	演劇	私達の”ことば”	4回目
10	埼玉県	坂戸ろう学園・大宮ろう学園	演劇・ポエム	夜明けのカラフル	坂戸：3回目 大宮：初出場
11	神奈川県	横浜南陵高等学校	演劇	十花十色～みんな違ってみんないい～	5回目
12	奈良県	奈良県立ろう学校	演劇	青い鳥	9回目
13	福岡県	三井高等学校	歌唱・演劇	『わかりません…。』	6回目
14	熊本県	熊本聾学校	演劇	「その手が生み出すもの」	8回目
15	鳥取県	鳥取聾学校	演劇	禍を転じて手話を聴く～五感でつながる私たちの絆～	6回目

令和4年度「あいサポート・アートとっとり祭(まつり)」の開催について

令和4年10月12日
障がい福祉課

障がい者が取り組む舞台芸術活動（音楽、ダンス、伝統芸能等）の発表と鑑賞の機会として、「あいサポート・アートとっとり祭」（鳥取県障がい者舞台芸術祭）を開催します。

ステージイベントでは3年ぶりに有観客（事前申し込み300名限定）とするとともに、インターネットでの映像配信も行います。

また、文化庁の行う「日本博を契機とした障害者の文化芸術共同創造プロジェクト」と連携し、一般社団法人スマイルウォーキング倶楽部・公益財団法人ダウン症協会によるファッションショーや日本視覚障害者団体連合による箏演奏、社会福祉法人日本肢体不自由児協会による作品展示など障がい者アートの輪を広げていきます。

1 概要

- (1) 日 時：令和4年10月29日（土）午後1時から 30日（日）午後5時まで
- (2) 場 所：とりぎん文化会館梨花ホール等（鳥取市尚徳町101-5）
インターネット配信URL <https://aisupport-matsuri.jp/>
- (3) 内 容：障がい者等によるステージイベントや社会福祉法人日本肢体不自由児協会による作品展示など
- (4) 主 催：鳥取県

2 プログラム

(1) ステージイベント（有観客/事前申込300名・インターネット映像配信）

梨花ホールで、公募団体等によるステージパフォーマンスや舞台芸術公演を実施。

① オープニングセレモニー（29日）

主催者挨拶、書道パフォーマンス（鳥取東高等学校書道部）、開会宣言等

② 県内公募団体ステージパフォーマンス（29、30日両日） 19団体

③ ゲストステージ

東京オリンピックの開会式でピクトグラムのパフォーマンスを披露したGABEZ（29日）、東京パラリンピック開会式で演奏を披露したギタリスト・田川ヒロアキ（30日）

④ 「日本博を契機とした障害者の文化芸術共同創造プロジェクト」ステージ（30日）

（一社）スマイルウォーキング倶楽部・（公財）ダウン症協会/ファッションショー
日本視覚障害者団体連合/箏演奏

⑤ あいサポート抽選会

出演団体・者への応援メッセージを募集し、メッセージを送っていただいた方の中から抽選で、特産品や障がい福祉サービス事業所などのスイーツやグッズがあたる抽選会を実施。

(2) 企画展示（同時入場者人数を制限）

フリースペースで、企画展やPR展示を実施。

日時：10月29日（土）～30日（日） 各日午前10時から午後5時まで

①（社福）日本肢体不自由児協会作品展

② あいサポート運動PR展示、全国障害者芸術・文化祭PR展示

(3) その他

- ・オープニングセレモニーでは鳥取市街地を中心に行われる「フクシ×アートWEEKs2022」（会期：10月29日（土）～11月27日（日））メイン会場（鳥取市：パレットとっとり）を中継で繋ぎとっとり祭の開会宣言を一緒に行うなど相互に盛り上げる。
- ・コロナ感染対策に十分配慮し、基本的な消毒、検温等の徹底のほか、観客同士の距離を十分にとることや、大声を出さない形での応援等に取り組む。

日吉津村における医療的ケア児等避難訓練の実施について

令和4年10月12日
危機管理政策課
障がい福祉課
子ども発達支援課

10月2日(日)、日吉津村における福祉避難所の開設及び医療的ケア児等の配慮が必要な避難者の受け入れ手順等を確認するため、鳥取大学医学部附属病院の全面協力のもと、医療的ケア児等避難訓練を県内で初めて実施しました。

今後、訓練参加機関で検証を行い、日吉津村の福祉避難所開設マニュアルの見直しを行うなど、医療的ケア児を含む配慮が必要な避難者の受入体制の強化を図ることとしています。

また、訓練内容等を県内市町村と共有し、得られた成果や知見を波及・横展開することにより県内の福祉避難所の対応力の底上げを図っていきます。

1 目的

災害時における医療的ケア児等の避難にかかる福祉避難所の立ち上げ手順の確認等を行うことにより、対応能力の維持・向上を図る。

2 日時

10月2日(日) 午前9時～11時30分

3 場所

日吉津村社会福祉センター(西伯郡日吉津村日吉津973-9) 等

4 参加機関等

日吉津村、日吉津村社会福祉協議会、鳥取大学医学部附属病院、株式会社フィリップス・ジャパン(医療機器メーカー)、鳥取県 他 約30名

5 訓練項目

福祉避難所の開設、福祉避難所と日吉津村災害対策本部との通信連絡、福祉避難所における医療的ケア児等の受入

6 訓練内容

地震(震度5弱)の発生を想定し、障がい者役1名(住民、車椅子利用)と、医療的ケア児1名(人形、人工呼吸器利用想定)が、支援者(家族)とともにそれぞれ自宅から一次避難所(最寄りの公民館)を経由して、福祉避難所(村社会福祉センター)へ避難・受入れ。

7 訓練の成果

- 訓練を通じ、日吉津村災害対策本部と日吉津村社会福祉協議会とが連携して受入手順を確認、マニュアルに沿って施設の被災状況や動員可能職員数を把握、社協職員が協力して福祉避難所の開設準備を行い、医療機器や電源などの準備、医療機関との連携など、実際に避難者を受け入れるまでの一連の受入要領を確認することができ、関係者の理解が深まることとともに対応力の向上につながった。
- 訓練評価を行った鳥取大学医学部附属病院の医師・看護師からは「たくさんの避難者が発生した場合の福祉避難所のレイアウトを検討しておく必要がある」、「感染症対策のため、福祉避難所の受付だけでなく、福祉避難所内(トイレの近く等)の複数か所に消毒液を配置するなど、避難所運営にあたっての細かいルールを考えておく必要がある」といった指摘があり、これらの課題については、改めて関係機関で検討を行い受入体制の強化を図っていく。



避難する医療的ケア児



福祉避難所での受付



福祉避難所のベッドに横たわる医療的ケア児

ハンセン病療養所入所者との県民交流事業の実施について

令和4年10月12日
健康政策課

ハンセン病人権問題への理解を深めるため、県民の参加を募り、国立ハンセン病療養所を訪問する「ハンセン病回復者との県民交流事業」を実施します。

なお、新型コロナウイルス感染症対応のため、昨年度と同様に例年より規模を縮小し、本年度は倉吉市出発のみとします。また、本県、岡山県の感染状況によっては急きょ中止する場合があります。

1 事業概要

- (1) 実施日時 令和4年10月20日(木) 午後1時～午後4時45分(予定)
- (2) 訪問先 国立療養所長島愛生園、国立療養所邑久光明園
(岡山県瀬戸内市邑久町虫明)
- (3) 参加者の募集内容 全県で12名
- (4) 申込期限 令和4年10月3日(月)
- (5) 参加者の決定
参加者多数の場合は初めて訪問される方を優先し、多数の場合は抽選の上決定する。

2 訪問内容(予定)

- (1) 人間回復の橋「邑久長島大橋」見学
※ 昭和63年5月9日に本州と長島を結ぶ橋として開通
- (2) 長島愛生園
 - ① 歴史館展示室見学、ビデオ視聴
 - ② 歴史回廊見学
 - ・収容棧橋(到着した患者が初めて島に上陸した場所)
 - ・回春寮(入所手続、消毒等を実施)
 - ・監房(逃走したり、秩序を守らなかつたりする入所者を懲戒的に収監)
 - ・目白寮跡(歌人として有名な明石海人(あかしかいじん)氏が入所していた寮の跡地)
 - ③ 納骨堂お参り、焼香
 - ④ 語り部(入所者)の講演会(体調により急きょ歴史館学芸員による継承講話に変更されることがある。)
- (3) 邑久光明園
納骨堂お参り、焼香

3 その他

- (1) 昨年度参加者の感想(抜粋)
 - ・コロナ差別もそうだが、間違った情報や思い込みに惑わされずに、正しい知識を持つことが大切だと痛感した。
 - ・衝撃と感銘を受けた。現地で学習することの大切さを改めて感じた。
 - ・語り部の方の「きれいな生き方」「恥ずかしくない生き方」という言葉が心に響いた。
 - ・正しいことを学び続けなければいけないと改めて思った。
- (2) これまでの実績
平成13年から実施しており、近年の参加状況(一般県民)は以下のとおりである。
 - ・R3:9人、R元:44人、H30:53人、H29:56人、H28:47人、H27:45人
 - ※ R2はコロナのため中止、R3は規模を縮小して実施